

村民参加促進の取組について

1. 世界自然遺産に関する村民意向調査

(1) 調査の目的

- ・村民が世界自然遺産に関して、肌で感じていることを広く把握する
- ・遺産に関する取組を進めていくうえでの参考とする

(2) 調査概要

対象	小笠原村の全世帯	村内中高生
配布数	1,330 (世帯数)	109 (生徒数)
調査期間	9月11日～30日	9月14日～25日
有効回答	847	106
回答率	63.7%	97.2%

(3) 結果速報

A) 自然環境の利用頻度

- ・父・母ともに、居住している島内の海岸や山域の利用頻度が高い。
- ・海岸域については「ほぼ毎日」「週に数回」「月に数回」を合わせるとそれぞれ2/3、山域については3～4割程度。

B) 世界自然遺産への希望と期待

- ・遺産登録前からの居住者は、登録されることについての希望は「非常に強い」「強い」「やや強い」を合わせると1/4程度。「普通」が1/4程度。半数近くは「あまりない」「全くない」「わからない」。
- ・遺産登録前の居住者が期待していたこととして、「山の自然が保全される・よくなる」「暮らし(経済状況)がよくなる」と続く一方で、4割が「期待していない」と回答。

C) 世界自然遺産と生活

- ・生活の中で大切にしていることとしては、「住み心地」が4割、次いで「暮らし(経済状況)」が1/4、「海の自然」と続いている。
- ・遺産登録前後での変化については、各項目で「変わらない」という回答が多数を占めた一方で、「住み心地」「山の自然」「海の自然」については「よくなった」を「悪くなった」が大きく上回った。

D) 世界自然遺産の価値を守る取組の認知度・関わり

- ・遺産管理の取組について、「仕事の一環で」関わっているという回答が多数となった一方、「関わりはない」が同程度あるいはより多数(いずれも3～4割)となった。
- ・今後の関わり方については、「日常生活の中でできることがあれば」が6割程度とな

った一方、「関わるつもりはない」という回答も2割程度見られた。

E) 村民と行政の連携

- ・中高生については、「ボランティアで協力したい」「村民参加の取組に参加したい」という回答が世帯の回答に比べて高い割合（合計3割程度）となった。
- ・遺産管理に関する情報は、世帯・中高生ともに「村民だより」により得ているとの回答が多数。（いずれも1/3程度）
- ・「兄島視察会」「外来種駆除ボランティア」「村民意見交換会」などの村民参加の取組については、いずれも半数前後は「参加したことがある」「知っている」と回答しており、3~4割程度は参加意向が見られた。

F) 世界自然遺産地域で動物を飼うということ

- ・ペットを飼っている割合は1割超。
- ・イヌ・ネコが多数を占める一方で、魚や昆虫なども一定数を占めた。

2. 平成27年度 世界自然遺産登録後に関する村民意見交換会の結果

(1) 開催目的

- ・世界自然遺産の価値を将来にわたって守っていくためには、そこに居住する村民とともに保全や利活用について検討し、村民生活との調和を図る必要がある。
- ・そのためには、民間と行政との認識を近づけることが重要なことから、遺産保全の取り組み状況の情報や村民が肌で感じている情報を共有し、遺産登録後の様々な課題を村民とともに考えていく。

(2) 開催概要

開催日 父島：10月17日、母島：11月12日

参加者 父島：31名、母島：24名（いずれも事務局関係者を含む）

議題

1. 世界自然遺産に係る各機関の取組紹介
2. 世界自然遺産に関する村民意向調査（結果速報）
3. ワークショップ：遺産登録100年後の小笠原～登録5周年を前に～
4. ワークショップ：動物と暮らすということ～ペットとの付き合い方～

(3) 結果概要・所感（結果の詳細は別紙概要を参照）

- ・ワークショップ形式にすることで、多くの意見を得られた。
- ・個別の課題に関する意見を除けば、概ね前向きな意見であった。
- ・参加者が限定的であり、より効果的な広報の検討が課題であるとともに、具体的な施策検討に活かすための実施内容・形式を更に工夫する必要がある。

3. 平成24年度～26年度開催の村民意見交換会の総括

(1) これまでの開催状況

村民意見交換会は、世界自然遺産登録1周年事業として始まり、当初は、登録後の観光・生活の変化や遺産の価値等、広く意見が出された。2年目は外来種対策などの具体的取組を村民とともに考えることに重点が置かれ、3年目には、行政と村民の間での情報共有を趣旨とした外来種や環境教育、村民生活・産業をテーマとして議論を深めた。

平成24年度：世界自然遺産登録1周年村民意見交換会（秋冬、父母で各2回開催）

- ・第1回は「村民生活（観光、産業含む）」と「遺産価値の保全」の2つの分科会に分かれてWS形式にて実施（自由記入による事前アンケートにより意見の傾向を把握）
- ・当時の開催趣旨は、世界遺産登録後に生じた地域の課題を地域内で議論する場として提供するとともに、ここから発信された議論の結果を共有することにより、小笠原の持続的発展のための取組みを村民とともに考えていく会につなげていくこととしている。
- ・村民からは、登録後の観光状況や生活の変化、小笠原の持続的発展のための考え方等、広く意見が出された。
- ・この年に出された意見に対しては、翌年報告をしつつ、観光面では即時可能なものは対応を終え、以後の対応の考え方も整理された。

平成25年度：世界自然遺産に関する村民意見交換会（冬に父母でそれぞれ1回開催）

- ・前年度の意見項目の中から、特に関心の高かった「環境教育」、「観光関係」、「新たな外来種侵入防止対策」にテーマをしぼって報告後に意見交換を実施。
- ・兄島へのアノール侵入や属島へのネズミ再侵入等が起こったことから、外来種対策についての取組を村民とともに議論。

平成26年度：世界自然遺産に関する村民意見交換会（夏と冬に父母で各2回開催）

- ・第1回テーマ：島の暮らしと遺産の保全（オガサワラオオコウモリ）、暮らしに身近な外来生物対策（ノネコ、ネズミ）
- ・第2回テーマ：兄島の状況と外来種対策、ネズミ・オオコウモリによる村民生活の影響、遺産関連施設の進捗、世界自然遺産に関する基礎資料全般
- ・兄島における外来種対策等の村民になじみの低い取組だけではなく、村民の生活に近い事象について、村民それぞれの立場で感じ方が違う中で、情報を共有し、地域内の課題について議論を重ね、小笠原の持続的発展のための取組に反映していくことを目的としていた。

(2) これまでに出示された意見の概略

大分類	意見数	主要な意見の内容
遺産価値の保全の進め方 (全般的な意見)	7	・将来像の共有 ・地域を巻き込んだ取組
遺産価値の保全のための取組	51	・新たな外来種の侵入・拡散防止対策 ・外来樹、アノール等外来種対策 ・愛玩動物対策 ・ネズミ対策(有人島、無人島)
遺産地域としての農業等のあり方	26	・ネズミ、鳥獣対策 ・農業振興に関すること ・地産地消の促進 ・特産品づくり
遺産地域としての観光のあり方	48	・登録直後の受入環境に関すること ・人材育成に関すること ・遺産の価値の伝え方 ・今後の観光のあり方
遺産の普及啓発	75	・展示施設に関すること ・環境教育(学校、大人向け) ・現場視察等村民向け情報提供 ・意見交換会の実施方法
その他遺産の影響、公衆衛生等	43	・公共事業の環境配慮指針に関すること ・街中の環境美化に関すること
	255	

* ご意見への対応の考え方

- ・各行政機関で、施策への反映が可能な事項は、実施を検討する。
- ・別途、個々の検討枠組み等が存在する場合には、それらの場での検討を担保する。

4. 平成28年度取組方針について

(1) 価値の再認識

- ・世界遺産の価値や保全管理の取組の意味などについて、再認識するための機会を提供
- ・登録5周年を記念したフォーラムなど、より広い対象の興味・関心を醸成する実施内容を検討

(2) 未来志向の意見交換

- ・村民生活と遺産管理の取組の乖離を埋めるため、より具体的な施策検討につながる意見交換テーマの設定
- ・地域づくりの一環として世界遺産を活用するという視点の導入

平成 27 年度 世界自然遺産に関する 村民意見交換会概要報告（父島）

開催日時：平成 27 年 10 月 17 日（土）午後 6 時 30 分～8 時 50 分
会場：地域福祉センター 2 階会議室
参加者：31 名（父島村民 19 名、事務局関係者 12 名）

今回の意見交換会は、世界自然遺産に係る各機関の取組紹介と、世界自然遺産に関する村民意向調査の結果速報を行った後、村民参加型のワークショップを行いました。テーマは、「遺産登録 100 年後の小笠原～登録 5 周年を前に～」と、「動物と暮らすということ～ペットとの付き合い方～」で、村民の皆様が普段の生活の中で感じておられる素直なご意見をたくさんいただくことができました。一つ一つのご意見に真摯に向き合い、村民の皆さまにご協力いただきながら、世界遺産小笠原を守っていけるよう励んで参ります。

意見交換の内容を、テーマごとに以下にまとめました。

1. 世界自然遺産に係る各機関の取組紹介

< 外来種対策の進め方について > （：村民の意見　：行政機関の意見）

外来種対策が後手後手になっている。村民からの発見情報の受け皿を用意し、侵入初期の対処方法を考えてほしい。

外来種の確認情報は環境省や村の環境課に伝えていただきたい。（小笠原村）

水際対策の実施には村民の皆様のご協力も必要なので、合意形成の回り方、制度化するか否かなど、取組の進め方を模索している。（環境省）

役人の方は数年ごとに入れ替わっていくので、外来種の危険性に関する認識の浅いまま、外来種を持ち込んだりしてしまうのではないかと。（村民）

小笠原での赴任任期が 2、3 年だからと、いい加減な考えをするような職員がいては困る。赴任者は小笠原の環境配慮について研修を受けている。適切な理解・配慮ができているか、適宜チェックをしていきたいと思う。（東京都）

環境配慮指針のようなものをきちんと作成し、チェック体制を伴った継続的な取組を行っていかねばならないと考えている。（村）

南島では村と東京都によるエコツーリズムの取組により、保全と利用のバランスがとられ、20 年前に比べて環境が戻ってきた。うまく利用しながら自然を守ることが大切であり、外来種の侵入に対し行政機関だけで取り組めることは限界もあるので、皆様のご協力をいただきたい。（東京都）

2. 世界自然遺産に関する村民意向調査（結果速報）

< 意見交換 > （：村民の意見　：行政機関の意見）

登録以前からの居住者の半数近くの方が世界遺産登録に対しての希望が「あまりない」もしくは「全くない」と回答している。どのような経緯で遺産登録にいたったのか。

平成 15 年に国が小笠原を世界遺産推薦地域に選定したのが発端となり、以降行政主導で登録推進の取組が進められた。登録前にも村民の方との意見交換の場を設けてきたが、登録後もこうしたコミュニケーションの場を大切にしたいと考えている。（村）

3. ワークショップ：遺産登録 100 年後の小笠原～登録 5 周年を前に～

話題提供として、中高生向けの村民意向調査の結果より、中高生の考える「将来の小笠原」を紹介し、それをヒントに、「遺産登録 100 年後 2111 年の小笠原はどうなって

いてほしいと思いますか？」という問いに参加者からご意見をいただきました。意見のいただき方については、村民と事務局関係者の立場を分けず、参加した人全員に各個人の思いを付箋に記入してもらいました。いただいたご意見を表1に示しています。



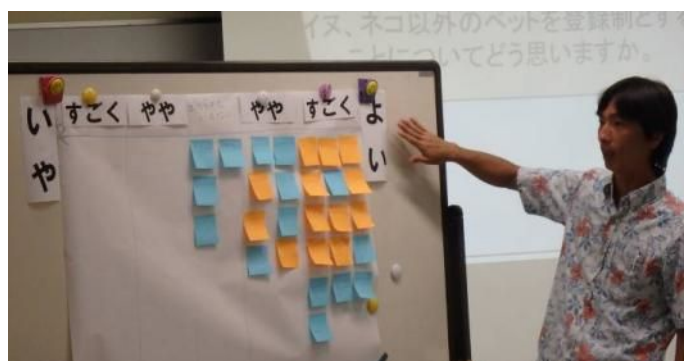
ワークショップの開催風景

(環境省よりコメント)

みなさんの希望が反映され、明るい未来が描かれた。このような将来像を実現するため、行政が主導するだけでなく、住民の方のお力も借りながら進めていきたい。遺産管理機関である行政も暮らしのことを十分に考えながら今後の施策を行っていきたい。

4. ワークショップ : 動物と暮らすということ ~ペットとの付き合い方~

話題提供として、「愛玩動物による新たな外来種の侵入・拡散に関する地域課題ワーキンググループ」についての説明を行い、その第1回会議で議論された「イヌ・ネコ以外のペットを登録制にすることについてどう思いますか？」という問いに参加者からご意見をいただきました。意見のいただき方については、回答の選択肢を「すごくよい」、「ややよい」、「どちらともいえない」、「ややいやだ」、「すごくいやだ」と設け、参加した人全員に該当する選択肢と選択した理由を付箋に記入してもらいました。いただいたご意見を表2に示しています。



ワークショップの開催風景

<意見交換> (: 村民の意見 : 行政機関の意見)

街中のネズミ対策としては、殺鼠剤を撒くのか、住民が管理するネコを避妊した上で街ネコとして放すのか。(村民)

ネコの飼養は、生態系被害の面でも、ネコの健康維持のためにも基本的には室内で飼

っていただく方針である。(小笠原村)

ネコの数を増やしてもネズミが減ることは期待できない。それよりも、生ゴミ等、ネコのエサになるものを除去したり、不特定多数のネコにエサをあげることを制止する方が大事である。(村民)

外で放し飼いでいるネコや、登録されていないと思われるネコがいる。どう対応予定か。

できるだけ室内で飼養いただくよう継続的に普及啓発を行っていく。(小笠原村)

当初の村のネコ条例では、登録に際して家主の許可が必要としていたが、家主の許可がなくても登録ができるよう条例を改正した。飼い主の会にも協力いただきながら、情報把握と登録推奨を行っていきたい。(小笠原村)

5. その他

<意見交換> (: 村民の意見 : 行政機関の意見)

村の環境配慮指針の実施はどうなっているか。(村民)

東京都で実施している方法を参考にしながら、庁内で検討を始めている。(小笠原村)

無人岩が世界遺産に認定されなかったという結果しか聞いていないが、再登録に向けた動きはあるのか。(村民)

無人岩に関しては、登録をあきらめたわけではないが、登録に向けた方針や具体的な動きはない。(環境省)

島内で使用されている除草剤の発がん性について、きちんと説明を行ってほしい。

ラウンドアップは農薬登録されているので、農水省や厚労省で発がん性に関する見解が出れば、それに準じて対応する。現状では、使用場所について、集水域をできるだけ避け、下流域に影響しにくい場所を選ぶなどの配慮をすることとしている。また、作業時は手袋をするなど、作業工程上の安全管理も徹底したいと思う。(林野庁)

Q1. 遺産登録100年後 2111年の小笠原はどうなっていてほしいと思いますか？

表1 村民から出された意見（複数回答可。分類テーマは意見提出後に設定）

<p>【暮らしと自然の共存】16件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然へのダメージの少ない生活をする島民の住む町 ・生活の場と自然との境界線があるかも ・小笠原の海産物がたくさん食べられる ・自然がそのまま保たれつつ観光と共存できている島 ・人と自然の共存。住みやすい暮らしの中に自然保護が根付いている ・農業。低農薬低化学肥料で育った安全・安心の野菜や果物が食べられる島 ・自然と人が共存している島 ・豊かなくらしと自然の共生 ・過度の開発はしないで自然の残る島がいい ・村民一人ひとりが自然の変化・影響に関心があり行動できる・意識を持つ ・今と同じくらいの自然。その自然との付き合い方がもっと見えている島 ・自然エネルギーの導入 ・エコノミー優先ではなく、エコロジー優先の島の生活 ・食糧自給率UP ・食べもののあふれるおいしい島 ・ヒトも外来種だったということに気づいて生活している島になっていると思う。
<p>【豊かで健全な自然】12件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生きものもあふれる生命豊かな島。島もコウモリも昆虫もたくさんの植物も。 ・固有種の動物園 ・固有種と外来種がいいバランスで共存できている島 ・絶滅危惧種がない（少ない）島 ・オオコウモリが母島にもいる ・豊かな森林が復活した島 ・アカボツボが電線に並んでいる様子 ・外来種のない森 ・たくさんの固有種が生きている世界 ・外来植物が見当たらず、全て自生種が生えている島（街中も） ・固有動植物だけでなく、新しい小笠原の魅力が見つかっている ・現在のガラパゴス諸島のような管理がなされた島
<p>【子どもから老人まで住み心地がよい】9件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今より交通の便がよい ・安心して老後が暮らせる島（医療の充実） ・老後まで小笠原で住める ・100年後は生きていないのでわかりませんが、みんなが小笠原に住めて良かったと思える島になってほしいです。 ・島の子供たちが島の保全・保護に活躍している ・子どもたちが井の中の蛙にならないように、自分の力で生きていこうという考え方ができるよう、村が教育の力を入れてほしい。 ・子どもたちがのびのびとたくさん生活できる島 ・若い世代や子どもの多い活気のある島 ・子どもがたくさんいる
<p>【観光の活性】5件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海路が発達し、海外との行き来ができる港がある。 ・空港はなくても航空路は確保されていて、観光が活性化している ・有人島だけでなく無人島にも観光で来島し、自然を楽しめるようになっている ・空港があり国際航路がある ・国内からでなく国外からも多くの観光客が来島する島
<p>【美しい海・景色】5件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前浜で星が見える（街灯を少なく）

<ul style="list-style-type: none"> ・今と変わらずきれいな海や景色がすぐ近くにある ・きれいな海 基本的には変わって欲しくない。 ・空気と水のきれいな島 ・透明度の高い海が残っている
<p>【自立した小笠原】3件</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・役人主導ではなく住民主導。補助金にたよらない村民の生活 ・自立した小笠原 ・東京都から独立している
<p>【静かな小笠原】2件</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・人が少ない ・このまま不便な島であってほしい。飛行場いらない。

Q2. ペットを登録制にすることについてどう思いますか？

表2 村民から出された意見（複数回答可）

【いやだ】 (0件)	【ややいやだ】 (0件)	【どちらともいえない】 (4件)	【ややよい】 (8件)	【すごくよい】 (13件)
		<p>(理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登録する意味がわからない ・種によって登録が必要なものとそうでないものがあるのではないか。 ・固有種とかを守るのならよいが、自分が飼い主ならめんどくさい。 ・個人でペットを飼ったことがないので気持ちが分からない。 	<p>(理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登録制のみですべてが解決するわけではないので。 ・管理が難しいのでは。すべてが把握できるのが問題。 ・ペットの種類によって区別する。 ・外来種ワースト10などの危険なペットには登録を必要とするのがよいが、それ以外は登録までの必要はないと思う。(グッピーはいかがなものか) ・万が一逃げ出してしまうと、その情報があれば行政側も対応しやすいと思います。 ・自然環境の脆弱性を正確に理解してもらうためにも必要と感じる。ただし登録のためにコストが発生すると実際には難しいと思う。 ・一生、責任を持って飼うという飼い主の意識付けが無いとうまくいかないと感じる。 ・ややよい 	<p>(提案)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全頭登録にしてほしい。登録されている動物は適正に飼育する指導を！ ・すべての動物は登録する方がよい。さらに植物の新たな導入もとどけるべき。 ・家畜も登録する方がよい。 ・カメ、オウム、小動物(哺乳類、大型のヘビ・イグアナなど)の登録はすべき。 ・家畜・植物はそれにくっついている生物“ノミ”や、それにいる微生物“カビ、菌類”も問題である。 <p>(理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多かれ少なかれ、自然遺産登録による経済的な恩恵を受けている方が多いと思う。「最も大切なこと」というアンケート結果も踏まえると、必要なことと思う。 ・小笠原のデリケートな自然を守るため ・平等になるので ・集合住宅ではトラブルのないように。 ・すごくよい <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全てを把握しきれるか。 ・「動物を飼えなくなる」という誤解を生まない啓発が不可欠。 ・実際に管理者(行政や関係者)が把握管理できる範囲の見極めが大切。

平成 27 年度 世界自然遺産に関する 村民意見交換会概要報告（母島）

開催日時：平成 27 年 11 月 12 日（木）午後 6 時 30 分～8 時 30 分

会場：村役場母島支所 2 階会議室

参加者：24 名（母島村民 17 名、事務局関係者 7 名）

今回の意見交換会は、世界自然遺産に係る各機関の取組紹介と、世界自然遺産に関する村民意向調査の結果速報を行った後、村民参加型のワークショップを行いました。テーマは、「遺産登録 100 年後の小笠原～登録 5 周年を前に～」と、「動物と暮らすということ～ペットとの付き合い方～」で、村民の皆様が普段の生活の中で感じておられる素直なご意見をたくさんいただくことができました。一つ一つのご意見に真摯に向き合い、村民の皆様さまにご協力いただきながら、世界遺産小笠原を守っていけるよう励んで参ります。

意見交換の内容を、テーマごとに以下にまとめました。

1. 世界自然遺産に係る各機関の取組紹介

< 外来種対策の進め方について > （：村民の意見　：行政機関の意見）

母島山域遊歩道沿いの小鳥の水場の予備ボトルが空になっていることがある。常時水が入っているよう管理をしてほしい。

管理は行っているが、水が入っていないことがあったら教えていただきたい。（林野庁）
母島世界遺産センターの話はどうなったか。

現時点では予算措置の見通しがついていない。村民の皆様のご意見をうかがいながら、整備に向け更なる検討をしたい。（林野庁）

北港に分布しているツヤオオズアリの対策について、報告をいただきたい。

北港休憩舎周りのツヤオオズアリの駆除については、10 月末に都道北端から 80m のエリアに、トラップ 150 個を設置した。ベイト剤はかなりの量の減少がみられている。（東京都）

兄島ではベイトステーションの効果でネズミが低密度化されつつあるとのことだが、密度が下がったというのは、対策を実施した範囲内での話か、それとも兄島全体か？
低密度化されたというのは、陸貝保全にとって重要な「重要保全エリア」内での話である。他の場所では、密度測定も行っていない。（環境省）

有人島、母島（特に南崎等）でのネズミ対策の見通しは？ベイトステーションのメンテナンスが大変ということならば、有人島から始めるのでもよいのではないか。

有人島である父島では、鳥山半島でベイトステーションの設置を検討しているが、南崎では具体的な対策案はない。姪島と妹島の陸貝は、ネズミ食害はひどくはなかった。姪島はカワラヒワ保全のためにネズミ対策が重要である。

南崎でネズミによる海鳥被害はあるか？（環境省）

南崎の半島部でオナガミズナギドリの雛がネズミに齧られた痕跡はあるが、それが死

因なのかどうかはわからない。

- 東京都では、海鳥の食害を防ぐため南島でのネズミ駆除を行う。南島ではこれまで何度も駆除を行っているが、ネズミの生息密度が回復し高まり、アナドリの被害が見られている。オナガミズナギドリの被害は見られていない。海鳥の営巣に影響が少なく、入島禁止期間でもある12月から2月にかけて200か所にベイトステーションを配置し、効果を観察する。(東京都)

2. 世界自然遺産に関する村民意向調査(結果速報)

<意見交換>(:村民の意見 :行政機関の意見)

中高生対象のアンケートで、事業説明会や講演会へ参加したという割合が高いと思っただが、父島ではそんなに中高生が参加しているのか?

環境省の住民説明会に参加している高校生はあまり多くない印象である。中学・高校で授業を行っていたり、兄島キャンプや兄島観察会に高校生がくることはあったので、そういった機会が反映された結果と思われる。(環境省)

3. ワークショップ : 遺産登録100年後の小笠原 ~登録5周年を前に~

話題提供として、中高生向けの村民意向調査の結果より、中高生の考える「将来の小笠原」を紹介し、それをヒントに、「遺産登録100年後 2111年の小笠原はどうなっていてほしいと思いますか?」という問いに参加者からご意見をいただきました。意見のいただき方については、村民と事務局関係者の立場を分けず、参加した人全員に各個人の思いを付箋に記入してもらいました。いただいたご意見を表1に示しています。



ワークショップの開催風景

(環境省よりコメント)

母島は父島以上に孤立した状態であるためか、「自立した小笠原」といった意見が多いと感じた。エネルギー自給、食糧自給については、今のシステムがサステナブルかという疑問である。生活の安全保障上の自立は重要なキーワードだと思う。父島と比べ、経済活動に関する意見が少ないと感じた。遺産登録に伴う影響・変化をあまり受けていないのかと思う。観光業は遺産の影響で左右されるのだが、母島はそこまではないのかと思った。

<意見交換>

もっと多くの村民が意見交換会へ参加するような意識変化があるとよい。
広報手段は模索中であり、来年度への課題である。来年度は遺産登録5周年なので、村民の皆様と遺産について考える機会をさらに作っていきたいと思う。(小笠原村)

4. ワークショップ : 動物と暮らすということ ~ペットとの付き合い方~

話題提供として、「愛玩動物による新たな外来種の侵入・拡散に関する地域課題ワーキンググループ」についての説明を行い、その第1回会議で議論された「イヌ・ネコ以外のペットを登録制にすることについてどう思いますか?」という問いに参加者からご意見をいただきました。意見のいただき方については、回答の選択肢を「すごくよい」、「ややよい」、「どちらともいえない」、「ややいやだ」、「すごくいやだ」と設け、参加した人全員に該当する選択肢と選択した理由を付箋に記入してもらいました。いただいたご意見を表2に示しています。



ワークショップの開催風景

<意見交換> (: 村民の意見 : 行政機関の意見)

ペット登録制の実施については、生態系保全の目的でご理解をいただけるということがわかり、参考になった。いただいたご意見は愛玩動物対策のワーキングにも報告する。実際登録制度を作るとなるといろいろと難しい点も出てくるが、今のところ好意的に受け止められるということは大いに参考にさせていただきたい。(村)

以上

Q1 . 遺産登録 100 年後 2111 年の小笠原はどうなっていてほしいと思いますか？

表1 村民から出された意見（複数回答可。分類テーマは意見提出後に設定）

<p>【豊かで健全な自然】15 件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アカギの 60 年計画実現しているか。シマホルトは増えているか。 ・固有動植物が人の手助けを借りる事なく健全に飼育・生息している環境になってほしい。 ・海洋島らしい固有種が失われない島になってほしい。 ・外来種駆除の手法が改善され、問題解決している。 ・ウミガメが戻って来る島 ・自然再生事業がうまく進み、小笠原の自然がより良い環境になっている。 ・いろんな生き物がいてほしい。アカボッポ、ヒワ、母島の人、シマホルトノキ、ハハジマノボタン ・外来種が入らない方法が確立している島 ・広範囲でなくてもよいので、ポイントをしぼった自然保護を。もちろん広いにこしたことはありませんが。 ・ワダンノキはツルタコに負けず増えているか。 ・良くも悪くも生物多様性が進んでいる。 ・実は絶滅寸前のカワラヒワの対策が進み、どこでもカワラヒワが見れるようになっている。 ・技術の進歩で沖港の水質が良くなり、キレイになる。 ・サンゴや漁業資源が豊かな海に囲まれた島 ・自然の豊かさと平和の象徴
<p>【自立した小笠原】10 件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人間の力が必要のない自立した自然環境の島 ・地産地消が進み経済的に自立。 ・行政特区になる。今の日本の行政にあてはまらない、小笠原独自の行政システムを。 ・島内で消費される食品の自給率が高まり、定期船に頼らない生活ができるようになる。 ・補助がなくなり、島が自立する = 自治を取り戻す。 ・独自の文化を発展させた島 ・村民が村民のために村民同士で話し合い、自立した島づくりのできる島 ・化石燃料がなくなり、内地とのアクセスが減り、車はなくなり、鳥と牛が活躍。島が自給自足できる。 ・内地とはちがう独自性を目指して、小笠原らしさを極めて進めていって他にはない場所になっている。 ・母島が独立して、自分達の事は自分達ですべて決められるようになっている。
<p>【暮らしと自然の共存】8 件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界遺産としての自然を残しつつ、今より人口も少し増えて、賑やかな島 ・全ての住民が自然保護に高い意識をもっている ・今より自然環境が悪化していない。エネルギーの自給自足・太陽光・風力・電気自動車。 ・エネルギー特区になる。今の火力発電ではなく、自然エネルギーのみの発電をする島 ・豊かな自然が残って、内地とのアクセスが便利になり、島民の生活が豊かになればよいと思う。 ・人口は増加しているが、自然も守られている。クリーンエネルギーを使い、世界的なモデル地域になっている。 ・人も自然も幸せに共存できる島 ・世界で小笠原だけ！という取組が成立している島に。バイオマスエネルギーとか。
<p>【暮らしやすさ】6 件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物流は大きく改善されて内地並みに便利なくらし ・老後住みやすい島

<ul style="list-style-type: none"> ・島でまた出産ができるようになっている。 ・住んでいる人が住み続けたいと思え、それが可能な島 ・小笠原にサテライト大学ができ、島内にいる人がいつでも自分の望む教育が受けられるようになる。 ・暮らしやすい環境が維持されている島
<p>【ステキなまま】 3件</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・自然がステキな小笠原のままで！現状キープよりちょっとステキになってほしい。 ・今と変わらず平穏な暮らしができる。 ・自然環境が変わっていない。(変化のない小笠原)
<p>【変化】 3件</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・硫黄島に住んでいて自由に行ける。小笠原からグアムへの航路復活 ・小さな航空路ができていて、内地とのアクセスが楽になる反面、今の島らしさがなくなっている。 ・人の住んでいない無人島
<p>【小笠原でおもてなし】 1件</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・小笠原島民すべてがホスピタリティーあふれるガイドのような存在になってほしい。

Q2 . ペットを登録制にすることについてどう思いますか？

表2 村民から出された意見

【すごくいやだ】 (1件)	【ややいやだ】 (0件)	【どちらともいえない】(4件)	【ややよい】 (4件)	【すごくよい】 (13件)
<ul style="list-style-type: none"> ・すごくいやだ。 		(理由) <ul style="list-style-type: none"> ・行政的コストパフォーマンスの問題 ・登録する意味の整理が必要だと思う。 ・どちらともいえない。 ・固有種保護の目的ではなく、「ペットのために」という目的にするべき。 	(理由) <ul style="list-style-type: none"> ・実効性が伴わないと不公平感が生じると思うが、危険なものは把握する必要あり。 ・簡単な登録で済むのなら。 ・ややよい ・(白票1件) 	(理由) <ul style="list-style-type: none"> ・海洋島の生態系を考えるとよいと思います。 ・小笠原の自然を守るために必要 ・ペットを適切に飼育し、命を大切にするためにも必要 ・もし捨てたり逃げたりしても、登録しておれば無責任な行動はとらないし、とれないだろう。 ・賛成です。危険を回避できる。 ・管理は必要 ・外来種の流入を管理するにはよい。 (意見) <ul style="list-style-type: none"> ・少人数の母島では、全て見えてしまうのでやりやすいが、父島で徹底するのは難しいかもしれません。 ・一般島民の植物の持ち込みに伴う昆虫等の対策も検討してほしい。 <ul style="list-style-type: none"> ・すごくよい ・よい ・(白票2件)